

COCOROOM
かふえ
TIMES

ゆったりとまかない料理を味わうもよし、
 ちびちび自家製酒に酔うもよし、
 仕事しながらしそジュースを飲むもよし、
 盛大にパーティなんか開くもよし。

自由気ままな使い方、望むところ。

んてらって、COCOROOMは**YAHOO!BBモバイルゾーン!!**
 まかないTIME 夜 12:30~14:30 日 19:00~22:00
OPEN 12:00 ~ 23:00 (不度休)

特集「戦場写真」～新世界の空の下で～

新世界の空をみあげて 昨日から明日へ 一日たりとも抜け落ちず
 ずっと つづいている空を思う

人の生き死にの 生きることも 死ぬことも この空の下では すべて等しい
 はずなのだが わたしたちは
 この星のあちこちで はじまりの記憶を忘れてしまう

この街で 生きる という言葉を使わずに 生きる人たちにすれ違い
 瞳目するたびに 自問自答をくりかえす

生きることは 戦うこと

誰に頼まれたわけでもない 世界へ 未明の空へ
 漕ぎ出す躰のような 真実の武器を
 態度として 言葉にする

*2003.12.15
 Kuranayo*



赤ペンで書く犬と黒ペンで書く犬
 電車に乗らずに歩いていくと
 天王寺動物園に沿って 歩くことになる
 ブルーシートにまつわる一直線は
 芝居の書割のように 空に映える
 とびら付きの路上の家に
 ノックする人 ノックしないまま押し入る人
 そのとびらを ちっとみつめて
 足早に去る人 夕暮れまで3歩半
 道ばたにねそべっている人がいる
 犬のように
 日陰で眠っている犬がいる
 眠りつつける人のように
 ここでは雨は垂直に降る
 天王寺動物園の高い檻のてっぺんが見える
 その緑の黒に さつき書いた黒ペンの先を
 近づけてみる
 午後の薄曇りを環状線のオレンジの車両が並走する
 ゆっくりと さつき書いた赤ペンの先で
 オレンジの車両の道筋をなぞる
 雨が垂直に降る
 通天閣に づぼら屋のフグに
 天王寺動物園のアザラシの背に
 雨が垂直に降る
 昨日もこうして雨に濡れたのだ
 道ばたに眠る人の夢のなかを
 オレンジの車両が 横切っていく
 夢の中で 雨はまだ 降りつつづいていて
 道路の先が 雨粒ににじんで みえない
 赤ペンをとりだして
 いっしんに 犬と書く 思う
 犬が泣いて
 子犬も泣いて
 大の大人が泣いて
 天王寺動物園のアザラシが 鳴くのだ
 背中に大阪の雨をしょって
 ペンで書いた犬は よく走る
 水たまりを飛び越え あのかをまがって
 ボーリング場の屋根を飛び越え
 大阪平野の夕暮れを背中にしょって
 点が 黒々とした点が
 ペンの先から つたって落ちてゆく雨の
 今、ここに記している ことばの先から滲んで
 机に水たまりのように広がってゆく 空のように
 四角い 部屋のなかで その上には 晴れ渡るには
 もう2、3日かかる大阪の空の下で 新今宮駅で
 犬のように眠る人たちの ブルーシートを思う
 青い青いペンで書く犬のまなざしよりも青く
 いっしんに雨をしのぐブルーシートの上を

戦場写真

上田假奈代
 2004年1月3日(土)~17日(土)
 おたじたちは生きて死ぬ。
 百年が過ぎた新世界で、写真家は詩人を撮る。
 その行為はくりかえされてきた咆哮の残照なのか。
 写真とことばが交差する光の中で、戦場に起つ上田假奈代がいる。

そして詩人はステージに立つ。
 とるにたらないことを丁寧に拾い上げてゆく、日々のおぼろの中、ふと見上げた空は、
 戦場の色をしているのかもしれない。飛び立つ勇氣を今。

あなたの上も同じ空が

LIVE
 2004年1月10日(土)・11日(日)
 時間:18:30開場 19:00開演
 料金:前売 2500円(drink別)、当日 2800円(drink別)

「戦場写真」撮影:牧田清 ことば:上田假奈代 音響デザイン:nova express 時間:12:00~22:00 入場無料
 「あなたの上も同じ空が LIVE」出演:上田假奈代 with 三ツ電気 詩のオーケストラ GAS(10日) 川崎知&姥原幹生(11日)
 チケット申し込み:前売:cocoroom|で発売中 メール予約:cocoroom@kanayo-net.com 電話予約:06-6636-1662 06-6636-1612(12:00~23:00)

C/P C/Pムーヴオンセレクション vol.09 「イリュージョン」 いいむろなおき×上田假奈代 日程:2004年2月2日(月)・3(火) 時間:20:00~ 料金:前売 2000円(drink付) 当日2300円(drink付)
 C/Pムーヴオンセレクション vol.10 「ことばのぬりえ展」 日程:2004年2月4日(水)~15日(日) 時間:11:00~22:00 入場無料
 「ことばのぬりえ合戦会」 ゲスト:上田假奈代 日程:2004年2月15日(日) 時間:14:30開演 15:00開場 料金:300円

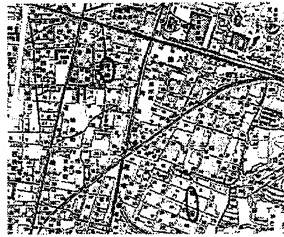
主催/総企画合わせ:大阪市文化事業実行委員会 tel 06-6955-5202 e-mail cp@art-space.gr.jp ※すべての会場はCOCOROOM(大阪市動物園前フェスティバルゲート4階)

特集：戦場写真

～新世界の空の下で～

詩人と写真家のお供で、飛田新地に入っていた。店先が連なる路地で、牧田がカメラを構えた時、自転車に乗っている男に制止された。我々があたりを足を踏み入れてから、3分もたっていない。男によると「この辺りは"ない"ことになっているから、看板は撮影しないでくれ」とのこと。「ない」ことになっている町の、窓という窓には、太い鉄格子が取り付けられている。阿倍野再開発の閑散としたマンション群を山手に見上げながら、「あのあたりに地獄門があつてな」と牧田が言う。着物姿の上田はここではヤクザの女に見えるかもしれない。プディング齋はタオルを首に巻き、大きな体を揺らながら無言でささささと歩いて行く。「ちょっとお兄さん」店前を横切る時、ピンク色の女と目が合った。

新世界の原点は明治36年に開催された第5回内閣勲業博覧会にある。新興開発から始まった街の歴史とともに、ここを舞台にした多くの現代詩・現代文学作品が生まれていった。この地をテーマとした文学者の系譜は、特に現代詩の詩人に顕著に見られ、新世界を故郷とした小野十三郎、住み処として詩作をつづける銀河書房の東淵修のように、現代詩人は新世界の惨憺たる現実、慈しみと真実の姿をことばで刻み、作品化してきたのだ。また釜ヶ崎労働者の中にも、多くの無名詩人たちが詩を織りなし、街頭での詩集販売の風景を今も見ることが出来る。例えば、小野十三郎の「新世界」という詩を読んでみる。



昭和初期の新世界地図

夜公園の坂をおりてゆく。「新世界」の空はほのかに明るい。私は長い間君の名まへを忘れていた。新世界!新しい世界!

百年前の博覧会は明るい未来の気分だったのか。博覧会跡地に開かれた新世界は、パリの町を真似て、旧通天閣から放射状に広がる街路を持ち、南側にはN.Y.のコニーアイランドを真似たルナパークという遊園地があったらしい。スラムの中に立つ閑散としたアミューズメントビル・フェスティバルゲートの中で、詩人はくすくす笑った。その通り。なにも変っちゃいない。

牧田が今回撮影した写真の中で、特に印象的なのが、夕暮れのフェスティバルゲートを背にした詩人が陽の差す方向を見つめているショットだ。

たこ焼けてゆく大阪平野の夕暮れにゆつくりと焦げた色をまはしながらたこ焼きの雨が降つてある点描の青緑は人々のあたまや肩にははらりと落ちてはしづかに遠い海を運んでくる

「春蛸」(抜粋) 上田假奈代



牧田がカメラを構えた場所は南霞町駅が横手につづく線路の上だった。暴動の時、何台もの車がひっくりかえって焦げ、駅舎ごと焼けた道のあたりだ。あの光景を昨日のように思い出す。えんえんと続く線路の上で、詩人

と写真家は言葉を交わさない。牧田は学生運動の頃からつづく長年の無理がたたり、ひどい神経痛に悩まされている。冷え込む日や雨の午後には「撮影を中止させてくれ」と痛みを押し殺した声で電話が入る。奥さんから電話が入ることもある。オッサン、もう酒、ほどほどにいや。報道カメラマンのキャリアを捨て、市井の人間の視点でファインダーを覗くひとりの男。その眼差しは彼の闘いもまた、長い孤独な旅路であることを物語っている。牧田も上田も基本的に「気い使い」のお喋り好きなのだが、ふたりの間にはお互いが沈黙していられるだけの信頼と距離があるようだ。シャッターをきる音だけが聞こえる。路面電車に乗り込み、終点の恵比須町で降りてまた界隈をうろつく。商店の軒先で店の女主人と微笑みながら言葉を交わしていた上田に、何を喋っていたのかと尋ねると「玄人さんですか、と聞かれた」と答えて、袂を揺らす。夕暮れのブルーシートの連なりに、詩人は何をしようのか。

いつの間にか、私たちはこのプロジェクトを「戦場写真」と呼ぶようになっていた。

「戦場写真」の中に、詩人の視点でのショットも入れよう、ということになり、上田もカメラを構えて、新世界をうろつく。お世辞にも似合っているとは言いがたいが、本人はカメラ好きらしく至って平気な様子。COCOROOMに出入りするF氏から「近くに九龍城のような場所があるよ」と教えられ、詩人カメラマンに付添い、下寺周辺へ車を出す。F氏から描いてもらった地図の字がどうにも読みにくく、私がつぶつぶ愚痴っていると、地図を見ながら「これ、ゲバ字よ」と上田が答えた。件の建物をようやく見つけ、屋上へ上がる。日本橋の大きな看板や、せりあがる上町台地に囲まれたそこは、昭和の幻が跋扈するむき出しのコンクリートが巧くてよく、おだやかな場所だった。12月の風の中で、詩人はカメラを空に向けた。視線はいつも空に帰ってゆくのだ。(i)

■牧田清プロフィール

1952年、大阪府八尾市生まれ。1988年から5年間、韓国で取材。大阪を中心にヒューマンタッチのフォトジャーナリストとして活躍中。報道写真「北方領土に行く」(アサヒグラフ)、写真展「サハリンの韓国人」(リパティおおさか)、被差別部落の活動ルポ「ヒューマンフォトギャラリー」を発表。「軌道」(新泉社)、「良心囚のおモニたち」(日本版/耕文社、韓国版/図書出版・空間)、「ホームレスの唄」(遊タイム出版)、阪神大震災被災地・神戸長田の記録として「街が消えた」(遊タイム出版)、「この街に生きる」(解放出版社)、「長田随想」(元氣やでKOBE)(ひこる書房)、「我肝沖縄ワチムオキナワ」(解放出版社)などの写真がある。*2001年出版の写真集「残影/闇市場から・鶴橋」(有限会社アットワークス)から転載



today's 7/365

「一生懸命生きてると、電車に乗り遅れることもある」

採取場所：松山 JR松山駅 改札前
採取日時：2003年12月02日
目の前で特急しおかぜの扉が閉まり、ディーゼルのエンジン音で車輪がまわりだす。ああ。高松から出航するフェリーに乗り損ねたわ。つい一心にあちらこちらを歩きまわっていたら、この始末。改札の前で一一生懸命次の手を考えるのであった。

poenique

<http://poenique.jp/>

日本最大級の総合詩サイト

詩の寄り添う場所。

於集電腦女流詩人
交流向上百花繚乱
詩的空間月毎更新
隨時求新同胞以愛

蘭

Web 女流詩人の蘭の会

<http://www.os.rim.or.jp/~orchid/>

"ノンジャンル"なんでもあり"を謳い8月末にスタートしたP.P.P.C.B.N.。既存のライブシーンに一石を投じるネオミクスチャーイベントとしてムーブメントの萌芽はあるのか。第8回目まで終了して、今、P.P.P.C.B.N.では、どんなことが起きているのか。前回に引き続き、ご報告させていただきます。

10/21

●大和川レコード (音響系弾き語り朗読)

「客席でやる」そう、言い放ち、機材を広げる。観客のみなさんは、壁際に追いつめられ、ただジッと見守る。何でも有りのP.P.P.P.。内容は、街で拾ったノイズを断片的につなぎ合わせ、それにギターの音をかぶせ、唄とも朗読とも言えない、言葉羅列する。この表現は非常に興味深い。

●西森光枝 (御呼ばれ女優)

「練習の鬼」。出演決定のあと、毎日のようにcocoroomを訪れ、時間の許す限り、練習に次ぐ練習。照明の加減や、音の反響、指の動き、眼球の運びに至るまで入念にチェック。その姿勢には頭が下がる。本番は等身大の女性を感じさせるひとり芝居。ユーモアとベロシティに溢れたあたたかい時間となった。

●梅田哲也 (ECHO TOWER)

「こいつはおもしろいよ」BRIDGEから送り込まれた新進気鋭の若手。「何が出来るかわからない」という前評判と「自作楽器の為、出力する音量によってはP.A機材を破壊します」と脅かすので、スタッフを電源プレーカー前に配置しての厳戒体制ライブ。アルミ缶を積み重ねたものに電極をつなぎ、微妙な振動とノイズをハウリング一歩手前の、フィードバックという形で共鳴させる。演奏とか音楽という概念をくつがえす、とても不思議なステージ。

●湯本剛士 (ロックな詩人)

天王寺の歩道橋などで詩を売る現役ストリート詩人が、全身黒ずくめで登場。「ロックな気持ちを詩にします」と、お茶を飲み、目を閉じる。どんな激しい言葉が飛び出すのかと、期待と不安で固唾を飲んで見守る観客。静かに発した第一声は「お母さんありがとう」。朗読をするのは、初めての体験とのことだが、ステージ度胸は抜群か。ネットやリーディングの詩シーンとはまた違う、ストリート系の価値観をCOCOROOMに持ち込んだ。



11/18

●Tin-toy-muzik (オモチャ音楽)

テーブル上、あふれんばかりのオモチャを乗せて、タツカターッと、登場。でも、その演奏は、ベーシックなテクニクに裏打ちされた、確かな実力。オモチャで演奏するのではなく、オモチャを効果音、アクセントに使ったプラスバンドといった趣。P.P.P.P.には珍しく、落ち着いたゆっくりと演奏を楽しめる状況でした。いつもこうなら、苦勞しないのになあ。

●よごいじ (新世界即興ノイズバンクユニット)

意味不明なんじゃもんじゃ語? =よごいじ語を操り、鳴り響く音響にあわせて身近にある、ヤカンや、花瓶などを随時説明していく。音はディレイと、ディストーションを多用したノイズな即興演奏。曲の始まりも終わりも、明確にはなく、「いつ終わるの?」といったベースの表情が秀逸。

●アドマーズ (おもろい詩人)

コートを着込み、首からブラカードをぶら下げて登場。サカナ君にも似た個性的、かん高い声で朗読。意外(?)に正統派な詩と、ところどころに挟まれたギャグ。「面白かったら笑ってもいいですよ」と、すべり続けるのが面白い。P.P.P.P.という場の難しい所は、笑いたい観客はお笑い芸人を見に行こう、という事か。詩人にどこまで笑いの要素が必要なのかは、これからも考えていきたいところ。

●江崎将史 (トランペット+講義)

トランペットというのは、金管楽器です。金管楽器というのは、金属で出来た筒の事です。トランペットを楽器としてではなく、一本の金属の筒として表現。あちこちのネジをゆるめ、気の抜けた「ぶすー」という音の、気圧の変化による微妙な音色の変化を表現。演奏やパフォーマンスとしてではなく、音楽の講義を聞いている気分。実はトランペット、下手なんじゃないの?という疑問にも、続く「Tin-toy-muzik」にて、リハ無しチューニング無しで、いきなり舞台上に陣取る。その風格たるや流石、パッチリあわせる。惜いねえ。

●ヨイカ (公開練習)

Tin-toy-muzikのステージに乱入し、そのまま朗読と音楽の即興セッション。不思議な光景が展開。「公開お稽古」と銘うっていたが、これも受け止めるのが、P.P.P.P.の身上。2月が本番だとか。それまで、どうぞ暖かく見守ってやって下さい。

11/4

●nova-express+黒子さなえ

(空間言語結晶化ユニットと偉大なダンサーのコラボユニット) 客席に巨大なプロジェクターを設置。演奏者達も客席両端に陣取り、異様なムードでスタート。壁面一杯に、街の風景を切り取ったものと、ウィリアム・パロウスのアフォルズムの言語を投影してゆく。一見、意味なく言葉羅列しているように見えるが、実は全てに、表の意味、裏の意味があるという、恐ろしく緻密な構成。風景に被さる紗のカーテンと水のイメージ。アンビエント/インダストリアルな音楽。それらを背景にダンサー黒子が、抽象性と身体性の狭間で踊りつづける。幾重にも重なり、うごめく表現は、単なるコラボレーションを超えた複合的な体験をさせてくれた。

●ha-gakure (音響系フリースタイルMC)

自分達の表現のクリエイティには、こだわりたい。専属のP.Aオペレーターと、音響機材を持ち込んだので出陣。ヴォーカルのヤスは、現役僧侶とのことで、ラップっぽいフレーズもどこか、読経しているようなムードが。トリオ編成とは思えない音の厚さで、インディシーン最新線バンドの風格が漂っていた。機材トラブルをものともせず、CDも完売。拍手。

●吉田大吉 (超絶シタール)

和歌山音楽シーンからの刺客。「40分といわれたので、40分演奏します」。一切のMCを排し、その演奏の始まりから終焉まで、一切、淀むことのない、テクニクの連続。自分で奏でた音の反響に、また別の音を重ね、またその音の反響に、別の音を重ねる。複雑な、倍音構成の中、反響音と残響音の波の中に身をゆだねる静かながら凄まじい演奏。「40分たつたので終わります」かすかに残響音の響く中、演奏終了。で実際は38分。

●若林のぞみ (童話リーディング)

可愛い声と、満面の微笑みで始まったのは、P.P.P.P. 初の童話の読み聞かせ。しかし、その内容は、「和歌山カレー毒物混入事件」で、愛する我が子が犠牲になった母親の、血まみれの慟哭。魂の叫び。どんなにやさしい美辞麗句を並べても、行間から聞こえてくる叫びは、薄っぺらい良心やちっけな幸福を、剃刀の切れ味で、スタスタに切り刻む。観客は席を離れることももらい泣きすることも、耳を塞ぐことも許されず。合掌。

12/2

●矢薙しん彦 (ポエトリーリーディングリターンズ)

矢薙君は、P.P.P.P. 出演経験者。前回、納得のいく表現ができなかったで、満を持しての再挑戦。来月から海外赴任だそうで、公私共に背水の陣、そして最後の挑戦。前回、練習不足の為、朗読をかみまわっていたのを、今回は改善すべく奮闘。独特の世界をつくっていました。

●紫放送 (ポエトリーヒップホップ)

バンド編成ではなく、CD、VOの2人組で登場。日本の古典にインスパイアされた言葉を、新しい現代語訳として表現。早口で聞き取りにくい、古語としての韻と、現代口語としての韻を、融合させようという大胆な試み。それに対する時間と努力には脱帽もの。沢山の練習を積んでの初ステージだった。金を取ってお客様に見せるためには、それなりのクオリティでなければならない、という事を改めて感じました。

●丘田イージマン (唄と朗読)

彼もまた、矢薙君と同じく、2度めの挑戦。「タイタニックの歌、唄います」と、沈没するタイタニック号の歌を熱唱。「イヤー、いい曲だなあ。もう1回いいですか?」、見たことのない笑顔で、終始ハイテンション。「タイタニック、タイタニック」と、大声を張り上げ、超こきげん。唄い終わったあと、満足し切った表情で「イイ曲でしょう?」意味不明。

●周川ひとみ (前衛舞踏)

周川の出演は、本番前日に急遽決定した。映画監督でもある、梅田哲也氏の強力な推薦があったからだが、「私は私の踊りたい時に踊る」「誰も私の踊りを止めることは、出来ない」と、リハ前の段階から舞台上で柔軟体操、そして、舞い続ける。他の出演者のリハ中も、リハ後も、客入れ中も、本番が始まってからも、ライブというのは、生き物で、何かおこるか分からない。野外ライブの場合は、風が吹いたり、雨が降ったりするんだよ。この日の出演者は、自分の表現力の底力を、試されることになった。ちょっとでも気を抜くと、周川に喰われてしまう。舞台上は、喰うか喰われるかの戦場だった。イージマンの、鬼気迫るハイテンションも納得。

●中島リエ (ドルブルス)

ある日、迷いこんできた超個人的な中島リエ姫の前代未聞のステージはCOCOROOM内で賛否両論を巻き起こした。ねこふんじゃったをピアノで弾き、大絶叫し、彼女の宝もののコケシをステージに並べ、ひたすらアジリつづける。観ている方としては「表現とは一体何なんだ」というところまで自問自答してしまっただ。ブックイングマネージメント、キュレーションをするにあたって、避けては通れない問題とぶつかってしまったのかもしれない。 つづく

今後のP.P.P.C.B.Nすべて19:00start ¥1500+1d

- 12/16(火) matinee、三沢奈央、小川恭平、稲田誠 ほか
- 1/20(火) 森本アリ、イロハ ほか募集中
- 1/27(火) 大野勝治、内田倫太郎、ヨイカ ほか募集中
- 2/17(火) 出演者募集中
- 2/24(火) Lo-lo,Lo-lo ほか募集中 2/27(金) 夢想回路 ほか募集中

■P.P.P.C.B.N.W

- 1/24(土) 想い出迷子、飯田修司、宮本典明、岡本清周、夜のバビロン
- P.P.P.P.日曜スペシャルライブ開催決定 1/25(日)
- SUMIOA、コウセキラジラ、拍尾振 ほか募集中
- 拍犬夜夜・第二夜
- 2/7(土) ジャンポール・マキ、ティランズチルドレン ほか募集中

出張 トイレ連込朗読朗読「あ」 かなよ、のぞみの姉妹四国珍道中レポート

12月1日

午前10時29分発の新幹線のぞみに1分遅れで乗り損ねたのぞと、34歳になったばかりのかなちゃんは、次発のひかりで岡山へ向かった。岡山でじゃがチース天とれんこんコロッケと助六寿司を買い込み、特急しおかぜに乗って松山へ。

旅情誘う路面電車に乗って、松山一の繁華街・大街道へ向かった。コーヒー飲みたいよねと言って、喫茶店を探す。そして入った喫茶「こまどり」。

足を踏み入れて、吃驚。誰のかわかん油絵がこれでもかと言わんばかりに掛けられ、ゴーヤス感を引き出そうとする調度品もなんだかめずれな趣き。BGMは琴。あっぱれ。

それから、松山城へのロープウェイに乗り損ね、登山並みの山道を登って7合目まで行き、松山城も見ずに俳句をひねって投句ポストにいれる。

続いて、松山市駅にほど近い喫茶「珈琲屋」にて、松山の詩人朗読会に参加。月1回の朗読会には毎回20名ほどの参加がある、とのこと。今回はかなちゃんをゲストに電撃的に行われた。まずは松山の詩人5人が朗読。この日のために仕事をサボって駆け付けた人、詩のボクシング松山代表など、みんなそれぞれ、気合いのこもった朗読だった。しっかりきっちり、がんばってるなあ、という印象。遅れて参加した4人を含め、かなちゃんの朗読も、熱心に聞いておられた。

その後、今回のメインイベントである、トイレ連込朗読へ。趣きのある道後温泉本館前に、着物姿のBJだいちがいた。隣の公衆便所へ入っていったかなちゃんとだいち。バイクで帰ろうとしてたオッサンが怪訝な顔をしていた。待っている間、寒いので、私は飛び跳ねたり歌ったりしていた。30分程が経過して、やっとふたりは出てきた。

BJだいちオススメの足湯に行った。彼はそこで時々、観光客相手に詩の朗読をしているのだと言う。気持ちよくほんわかしてるシチュエーションが良いらしい。同じように、彼が詩を読んでくれた。

道後温泉の、あったかいひととき。ハラヘリで向かった先は、だいち御用達の割烹「すえひろ」。鯛の開きがそのまま乗ったじゃこ天かとびきりうまい。彼は「トイレ連込朗読プロジェクト」の主旨を即座に理解していたらしく「とても励まされた」と言っていた。それでも、トイレに入った瞬間は、詩に耳を傾けるどころか、とても緊張したそうだ。

賑やかな夜は、早くふける。ただでさえ夜の早い松山。旅館「浪六」のおばちゃんに迎えられ、温泉風呂に入って眠りについたのは、いつもより早い23時50分。

12月2日

早起きの不得意な我々が、なんと奇跡的に5時45分に起きて、道後温泉本館へ。地元の人や観光客とともに6時の鐘の鳴る開館を並んで待つ。3秒前、扉が開けられ、いざ。

せつかくなので、一番上等のコースを選び、ええ風呂に入り、天皇の風呂を見学。しかし一番感動したのは、みんなのお風呂。常連のおばあちゃんたちと一緒に入ったそのお風呂の天井は、ドーム型になっており、マンダラのような穴から青い空が見えた。

感動冷めやらぬまま、旅館に戻って、また寝た。旅館の朝食とは、何故あんなに食えるのだろうか。気がつけば、ご飯おかわりしていた。道後温泉駅に着くと、今まさに坊っちゃん列車が発車寸前。慌てて飛び乗った。観光客丸出しで写真を撮る。

そして気がつけば、予定していた特急電車に1分遅れで乗り過ごした。予定では、高松まで電車で行き、うどんを食べ、船で帰るはずだったのだ。

仕方なく、高速バスで帰ることに。バスの時間まで数時間あいたので、石手寺に行く。意外にワンダーな世界であった。石の彫刻がなんだか滑稽だったり、長い洞窟を抜けると変なマンダラ館があったり。

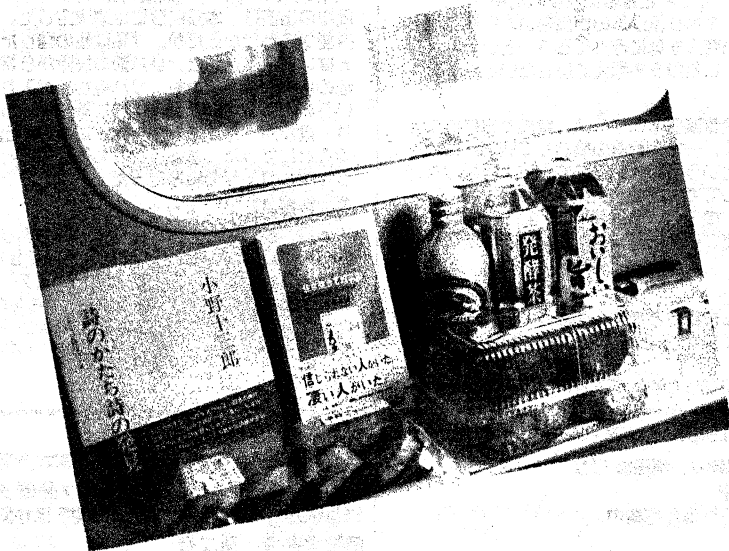
ところがやっぱり、バスに乗り遅れそう。慌ててバス停へ。結局、讃岐うどんが食べなかったのが残念なので、大阪に帰ってから四国うどんの店で食べたが、イマイチ。

楽しい旅だったが、食べ過ぎてまた太ってしまった。しかし日常からトリップした2日間、大いにリラックスして楽しませていただいた。皆に感謝。

レポート 上田のぞ美



みかん





生まれた日はたれでもたぬよ

前回まで：視覚障害者施設・ライトハウスでのワークショップで出会ったかのこさん。夏のある日、かのこさんとお母さん達が、COCOROOMを訪ねてきた。その理由とは。

ポーカフェイスの彼は 寝込んでいた とは言わない。そのうえ 飄々とした顔で 作品を見せ「個展やりたいんです」と言う。ところが、である。個展をするというのは、宣言したからといって翌朝できるものではないのである。いろいろな雑多な仕事がある。それをすべてかのこさんにお話した。かのこさんは 困った顔をした。展覧会をするとは、他者に見せる 見てもらうことであり、表現活動は 他者との交感であり、孤独を引き受けることである。そんなことを わたしは 話した。彼は ますます困った顔をしたけれど、「どういったでも ぼくは がんばります」と言う

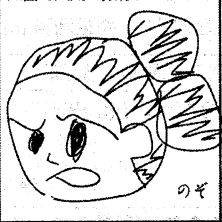
上記：上田假奈代「人生のきりくさかた」より一部抜粋

「がんばります」は、かのこさんだけではなかった。『かのこさんの展覧会』を大急ぎでやることになったCOCOROOMもまた、てんやわんやの大騒ぎになったのである。オープン間もないCOCOROOMには展覧会をやるだけのノウハウも備品も準備もないため、何から手をつけていいのやら。いきがかり上、キュレーションは上田が担当することになった。かのこさんの持ち込んだ沢山の絵手紙や造形物の中から、良いものをセレクトしなければならぬし、キチンと額装しなければならぬし、案内状を大急ぎでつくって、発送しなければならぬし、デザイナーは？印刷所は？それ以前に発送先も調べなければならぬし、ああニュースリリースも送らなくちゃ、新聞社なら取りあげてくれるかもしれない、照明はどうする？ギャラリーみたいなここにはないよ、造形物に台が必要だけどどうしよう、予算も切り詰めないといけないし、展覧会のオープニングパーティーってどんな感じだったっけ？ワークショップもやるし、絵手紙をCOCOROOMのスペースでどう見せたいのいのだろうか？困ってしまったのは、かのこさんだけじゃなかったのである。(つづく)

もーれちゅ！マウス絵道場！

四国で人気 殿様ケンちゃん

～詩のオーケストラサイト共同企画～
http://www.kanayo-net.com/si_oke/
マウスで描いてみよう♪jpgで送ってね
→まうす絵師範 ezman@nifty.com



四国の夜は早くて、深かったね。
ケンちゃん、眠いところ無理矢理起こされた？
今から6時の朝風呂に行くのね。

のぞ

『ぼえ写生大会へ天王寺動物園へ』

白くまくんやキリンさんを描こう！詩も 服部まみち

秋といえば 芸術の秋！食欲の秋！ cocoroomはこっそりアーティスト集団なので、もちろん「芸術の秋」！（食欲は季節関係なく、いつも…かな）
10月18日 気持ちのいい秋晴れの昼下がり。平均年齢33歳の大人達が画板と画用紙、お弁当と水筒をさげ いそいそと動物園へ。
ゲートをくぐると、とたんに潤いた草と動物のにおい。遠くから何の動物かわからない鳴き声。たくさん生き物の気配。親子づれ、カップル、遠足の子供達、アイスクリームやたこやきの看板。むずむずして、走り出したくなるような。
まずは腹ごしらえ。（この辺りが食欲の秋ですね）芝生広場に大きなシートを広げて、ぶていんく斎さんの作ってくれたお弁当の包みを開ける。
卵焼き、からあげにタコさんウインナー！おもしろのカップには手描きの動物のイラスト。パンダ、キリン、シマウマ。動物占いのようで、みんなで見せあひっこする。おいしくて楽しくて、あつという間にごちそうさま。
そしていよいよ写生大会。それぞれ、スケッチしたい動物のところへ。幹事は忙しい。写生風景を撮影したり、みんなの絵の進み具合を確認したり。気がつけば、日がかたむいてる。わたしはライオンの素描しか描けていないけど、ふたたび芝生広場に集合。集った画用紙には、ラクダ、フラミンゴ、ライオン、マントヒヒ、キリン、クレバス、隼ペン、ガッシュ、色えんぴつと、画材もモチーフも詩も、それぞれに個性的。即席の合評会を始める。詩の朗読も。大団円を迎えたころ、一部始終を観ていた飼育員さんから拍手喝采を浴びる。
つづいて、天王寺美術館の「円山応挙展」へ。眼力を一点に集中させた写実の素晴らしさにノックアウトされた。人混みの垣根からもその迫力が伝わってくる。美術館の外に出たら、夜空にくっきりとお月さま。いつのまにか、季節がひとつかわっていることに気づく。

大人になってからの動物園。
芝生のうで食べるお弁当。
動物とことばをかわさないひとりの時間。
空の下での詩の朗読。
非日常とよぶには大袈裟だけど、
大阪の街の中でひととき和やかにすごせて嬉しい。
秋の空は美しい。

これからcocoroomではいろいろな企画を計画。実験的だったり、素朴だったり。なにげない毎日だから、ときどき友達にあいにくるみたいにcocoroomに来てください。

この日の作品たちは翌日から『ぼえ写生大会展』（～11/2）として展示。たくさんの方に見ていただきました。

百年の孤独

G・ガルシア＝マルケス 著 鼓直 訳 新潮社 ¥2800(新訳版)
南半球の太陽を見たことがないあなたに：★★★★★

36歳の私には子供がいない。私の従兄弟達もどちらかと言えば、子供が少ない様子。母方の祖母には多くの子供達がいた(7人!)。彼らは戦争の貧困をくぐりぬけ、努力を付けた。高度成長期の頃にはそれぞれに2名以上の子宝に授けられ、一族は繁栄してゆくような気がしたものだ。しかし、いつの間にか一族は衰えていった。祖父の子供たちの多くはこの世を去ってしまった。私はあたりを見渡してみる。豊かな夏は終わってしまったらしい。
『百年の孤独』の新訳版単行本の帯には次のように書かれてある「20世紀を代表する偉大な小説」と。確かに。これ以上面白い本は読んだことがない。ここには「すべて」がある。混沌の中の息吹。若いはいかみと思ふか。年増女との情事に潜む衰退の種。予言者の魂。ホセ・アルカディオは木にくくられ、ウルスラは盲目になりながら家をきりもりし、レベッカは死の床で暮らし、アウレリャーノは英雄の狂気にとりつかれる。小唄娘のレメディオスは空のかなたへ飛んできき、アウレリャーノセグンドは乱痴気騒ぎを続け、アマランタは処女のまま年老いた。私たちが暮らすこの場所も、やまない雨に降られ続けるマコンドのようなものか。赤子の健やかな掌の中にも死は確実に存在しているが、年増女と抱き合うことも悪いことばかりではない。孤独とともに生きる術を彼女は教えてくれるのだ。

イベント「酒鬼薔薇聖斗への手紙」を終えて

樋口ヒロユキ

■満員御礼

すごい盛況ぶりだった。前売は十数枚しか出ておらず、前日まで半泣きになって動員対策をしていたというのに、いざ蓋を開けてみたら椅子が足りない満員御礼ぶりだったのだから。実際、今回は街頭でチラシは投げつけられるわ、一部スタッフからは見放されるわといった具合で、数少ない理解者と、圧倒的な無理解の板挟みにあった企画だった。それが当日になると満員御礼、イベント終了後も打ち上げに見ず知らずの人が数多く残ってくださり、励ましを頂いたり濃厚な議論を交わしたり、なかには「感動でもう口も利かせません」という方まで出てしまった。イベント終了後も参加者からはたくさんメールを頂き、今なお数名の方とはやり取りが続いている。動員の数はともかく、こんなに濃厚な反応のあったイベントは生まれて初めてのことだ。改めてここに、来場して下さった皆さんに篤く御礼申し上げたい。

■語りえぬものを語る

イベントは谷竜一君、朝宮運河君、上田假奈代の三名の詩の朗読で始まったが、いずれも「酒鬼薔薇を語れないということ」を謳った、「語りえないものを語る」言葉の連なりであった。俺は本来文学とは「語りえぬもの」を言語化する営みだと思っているが、このイベントではまさに「語りえぬもの」が言葉として、声として立ち現れる瞬間を目の当たりにできた。言うまでもなく俺は「これこれこういう詩を書いてくれ」などと一言も頼んでおらず、各人の思いがシンクロナイズした結果である。本当に感無量としか言いようがない。三詩人の朗読のあとは大谷昭宏さん、今一生さんと俺のトークとなったが、俺はこしばらうの感情のたかぶり一気に押し寄せたため、何度も言葉に詰まったり、堰を切ったように話し出したりして、まともな状態でのトークではなかった。語りえぬものを語るどころか本当に絶句してしまっただけで、お恥ずかしいことこの上ない。あんな状態の人間と2時間近く対話して頂いたわけだから、来場された皆さんと出演者の皆さんには、改めてお詫びを申し上げなくてはなるまい。

■性と暴力の許容

トークでは壇上の全員が「もっと性や暴力を許容する社会を」というメッセージを発していたと思う(言うまでもないがこの場合の暴力とは現実の暴力ではなく、想像上・表現上の暴力を指す)。だがその実践のあり方については、出演者の意見のニュアンスは分かれた。性的サディズムの問題をこくふつうの性的コンプレックスの一部として語ろうとする大谷さんと、サディズムは一般的なコンプレックスとは違い、そのぶんサディズムを抱えた人間は孤独感も深いのだとする俺が、壇上では軽くバトルを演じる恰好になっていたかと思う。また、2ちゃんねるなどのネットをめぐる評価についても、大谷さんと俺で意見は分かれた。俺は留保つき肯定派、大谷さんは完全否定派だ。誤解のないよう言うておくが、俺はジャーナリストとして大谷さんには大いに敬意を払っているし、大谷さんの頑固オヤジっぽい姿勢はとても好きだ。こういうまっとうな人がちゃんとしているからこそ、変態やネットオタクも生きていけるのだ。要はそういう多様性を許容しない社会こそが弱者の孤立感を深め、犯罪に走らせるのだと俺は思っている。今さんはなんだが俺と大谷さんの間を取り持つ恰好になってしまったが、さすが編集者だけあってバランスの取れた身のこなしを見せ、出演者どうしや壇上と来場者の間を、うまく結びつけて頂いたと思う。会場との対話も考えていたが、質問しにくい雰囲気だったので、結局壇上の人々で2時間話して、本番自体は終了した。

■プロジェクトは続く

壇上ではあえて結論は出さなかったのですが、消化不良な気分になった方もおられたかとは思いますが、このイベントは答えを出すためのイベントではなく、問いかけるためのイベントだった。性や暴力をどう許容するのか、その実践はいかにあるべきかという問いは、来場された皆さんの、今後の実践の中で答えを見つけていくほかない。かくして、単行本とイベントという二つの形態で世に問うた『酒鬼薔薇聖斗への手紙』プロジェクトは終了した。だが、俺の中でこの事件は今後も原点になるだろうし、事件で亡くなった犠牲者の方やそのご遺族、犯行を犯した青年や、性と暴力の魔力に取りつかれて苦しむ多くの匿名の人々の、何らかの支えになればと思ひは、イベントを終えてなお強い。その意味では終わったどころか、なにもかもがこれからなのだろう。最後になるが、このイベントは我が盟友・上田假奈代とコロールのスタッフの皆さん、そして秘密結社★少女椿団の心ある有志たち、ネット上の匿名の協力者の皆さんや、陰で応援して下さった方々の支えなしに、成立することはなかった。万感の思いをこめてここにお礼申し上げます。本当に、本当にありがとうございます。

P.P.P.C.B.N大忘年会

12/22(月) 18:30open 19:00start ¥1500+1d
 出演：桑原満弥、三★電気、Publicbath、ハダカデンキユウ、axolotl、かつふじたまご、PLANET JUICE、岸田コーイチ

キモノガールズで大チャイナ祭

12/23(火・祝) 18:30open 19:00start ¥1500+1d
 出演：桑原満弥、ヌーラとキモノガールズ、ヨイカ、ha-gakure、大和川レコード、BISCO、BJだいち、原田純平

Sprits Rejoice

12/26(金) 18:30open 19:00start ¥1500+1d
 出演：あぶらなぶり、INDEN(土俵ORIZIN)、hime(鳴海姫子)

天晴れ のぼパレ 忘年会〜ツーマンライブ〜

12/27(土) 17:30open 18:30start ¥1500+1d
 出演：no*bo、Contorary Parade

トランジスタ・バス番外公演「めばえ」

12/28(日) 1回目15:00start / 2回目19:00start ¥1300 +1d
 INFO: <http://transistorbus.fc2web.com/>

BASEBALL.Love of Diagrams.All over Europe Tour from Australia at大阪新世界 "cocoroom"

12/30(火) 17:00頃open start ¥2000(1dおつまみ付)
 出演：BASEBALL(from Aus.)、LoveofDiagrams(fromAus.)、LOVED LOVED「ファルソス・ヒターノス(偽ジプシー)」(友情出演)
 からんどう、上田假奈代、川崎知(sax)、蝦原幹生(drums)、丘田イージマン ほか

T.E.E.No.6

1/18(日) 18:00open 19:00start free+1d
 出演：novaexpress(アンビエント音響と映像)+上田假奈代(詩人)+黒子さなえ(ダンス)、血人(パーカッション・アンサンブル)+川野拳史(空手家)、Panple(スティールパント)、ORGAN(スーパー・オーガニック・ミュージック)

ワークショップ・声

1/19(月)、1/28(水) 19:30start ¥1500
 講師：かどたけし
 INFO: 090-8215-2925(officeHAKUA)

※+1d→別途ドリンク¥500

● 関連情報

■ 詩の学校

12/17、2004 1/7・21、2/4・18、3/3・17 すべて水曜 19:30~¥1000
 應典院 大阪市天王寺区下寺町1-1-27 tel.06-6771-7641

■ 詩の放課後

12/18(木) 19:00~¥1000
 京都芸術センター/info.075-213-1000/http://www.kac.or.jp
 京都市中京区室町通錦薬師下る山伏山町546-2

■ 声とことばのワークショップ

1/24,2/7・21すべて土曜 13:30~ free
 講師：上田假奈代、飯島秀司
 視覚障害者リハビリセンターライトハウス/大阪市鶴見区今津中2-4-37

編集後記：COCOROOMカフェで毎日のようにまかないを食べてくれるM君がサンタクロースに!「いつもおかわりをしているのでクリスマスにお米をプレゼントしたい」との申し出。贈り物とは本当に「もの」だけではなく「こころ」をおくるものなのだあと一同感激!(まみち)

COCOROOMでは、寄付をつのっています

運営のための寄付をつのっています。ご寄付いただいた方には、お名前を「ぼえ犬通信」に掲載させていただきます。5,000円/1口 何口でも結構です。
 三井住友銀行 船場支店 普通 2140440 郵便振替 記号01090-5-48059
 cocoroom 代表 ウエダカナヨ cocoroom代表 ウエダカナヨ
 ※田中乗子さんより寄付をいただきました。ありがとうございます。



zip556-0002 大阪市浪速区恵美須東3-4-36
 フェスティバルゲート4F
 tel&fax. 06-6636-1662 tel.06-6636-1612
<http://www.kanayo-net.com/cocoroom/>
 ※地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」5番出口直結
 ※大阪市営バス「地下鉄動物園前停留所」すぐ
 ※JR 環状線・関西線「新今宮駅」下車 徒歩すぐ
 ※南海電鉄本線・高野線「新今宮駅」下車 徒歩5分
 ※阪堺電軌鉄道「南霞町駅」下車 徒歩すぐ
 ※駐車場(有料) 営業時間10:00~23:00/60分600円
 ■新世界アーツパーク <http://www.sap-s.jp>

● **こんにちはcocoroom**

第1弾「戦場写真」

1/3(木)~1/17(土) 12:00~22:00 free
 写真：牧田清 ことば：上田假奈代
「あなたの上にも同じ空が」LIVE 1/10(土)・11(日)
 18:30open 19:00start 前売:¥2500+1d / 当日:¥2800+1d
 出演：上田假奈代with三★電気、詩のオーケストラ、GAS(11日)、川崎知sax&蝦原幹生drums(11日)

第2弾「illusions」

2/2(月)・2/3(火) 19:30open 20:00start
 前売:¥2000(1d付) / 当日:¥2300(1d付)
 出演：いいむろなおき(マイム) × 上田假奈代(朗読)

第3弾「ことばのぬりえ展」

12/4(水)~2/15(日) 12:00~22:00 free
「ことばのぬりえ合評会」 2/15(日) 14:30open 15:00start ¥300+1d
 ゲスト：上田假奈代 / 司会：C/P編集部

P.P.P.C.B.N 18:30open 19:00start ¥1500+1d

ポエトリーリーディング、ダンス、パフォーマンス、弾き語り、ひとり芝居など、ジャンルを問わず、ひとり、もしくは少人数のアーティストを応援!

- 12/16(火) matinee、三沢奈央、小川恭平、稲田誠
- 1/20(火) 森本アリ、イロハ ほか募集中
- 1/27(火) 大野勝治、内田倫太郎、ヨイカ、ハッピー幸子、稲葉健
- 2/17(火) 募集中
- 2/24(火) Lo-lo,Lo-lo ほか募集中
- 2/27(金) 夢想回路 ほか募集中

P.P.P.C.B.N.W

1/24(土) 想い出迷子、飯田修司、宮本典明、岡本清周、夜のバビヨン
 阿佐田巨 (大和川レコード) プロデュースによる一夜・2/27(金)も
 いろいろな風景のいろ いろいろないるいろ
 こちらも出演者募集中→wataru110@hotmail.com

P.P.P.P日曜スペシャルライブ開催決定

1/25(日) SUMIOA、コウセキラジヲ、拍尾振 ほか募集中

狛犬な夜・第二夜

2/7(土) ジャンボール・マキ、デュランズチルドレン ほか
 出演者募集中!

ぼえ茶会 生きる仕事シリーズ 19:00open 20:00start

- 1/23(金) vol.12 「井戸掘りコーディネイター／蓮岡修」
 アフガニスタンで850本の井戸を掘った男
 対談：蓮岡修×上田假奈代
- 2/13(金) vol.13 「神戸ファッション美術館学芸員／百々徹」
 時代の2歩半先の歩みでアートと世界をみせる男
 対談：百々徹×上田假奈代
 前売:¥1300 / 当日:¥1500 / 中高生:¥1000 すべて+1d

Coco de Noh 18:30open 19:00start

¥2000(food+1d付) 3回通し¥5000

- 2/6(金) 満月の夜に~成田達志
- 2/20(金) 月のない夜に~片山清司
- 3/5(金) 如月(陰曆)の十五夜に~味方 玄

企画制作：石淵文榮
 主催：大阪市・財団法人大阪都市協会
 INFO: cocodenoh@log-osaka.jp



COCOROOMをめいっぱい活用ください

パーティー会場で、笑いと思彩を放つ面白お料理をお届けすることもできます。大工仕事、看板作りもお手のもの。
 担当：何でもアーティスト料理人・フティング齋
 COCOROOMを使って、催しを行い方。いろいろ協力します。まずは、おはなしにきてください。1日基本管理料：20,000円

スタッフ求む!!

COCOROOMでは、意志のあるスタッフを募集中。生きる技術を磨きたい方は、扉をたたいてください。
内職的ボランティアも募集中
 なぜか、折ったり、貼ったり、切ったりの多い仕事です。退屈に殺されるよりマシ、と思ったら来てください。